

【がん種】 **大腸癌**
【レジメン名】 FOLFOXIRI①1～12コース目
【登録番号】 160546
【1コースの期間】 2週間
【総コース数】 進行・再発:12コースまで(SD以上の効果が得られた場合にはFOLFOXIRI②13コース目～を施行する)
【催吐性リスク】 高度:FOLFOXIRI
【抗がん剤の組織障害性】 イリタント(炎症性):カンプト, エルブラット(漏出時の冷却禁止), 5-FU
【投与量に制限のある薬剤】 なし
【主な有害事象】 編集中

【必要な検査】 編集中
【根拠論文】 J Clin Oncol 25:1670-1676, 2007.

【点滴の時間】 [day1～]51時間5分
【費用】 編集中
【その他】

対象患者: UGT1A1に*6(*6/*6), *28(*28/*28), *6(-/*6)+*28(-/*28)のいずれかの多型がない。原則、CVポートを増設して治療を行う。
携帯型ポンプの使用可否: CVポートを造設している、外来で治療する場合(入院導入後に外来へ移行する場合には初回入院時も使用可能、外来に移行せずに入院で治療を継続する場合には使用不可)。

携帯型ディスポーザブル注入ポンプ使用時

Rp	薬剤名	量	投与方法	投与時間	投与日								
					1	2	3	4	...	14			
1	生理食塩液 250mL	1 B	メイン	キープ&フラッシュ	○								
2	生理食塩液 250mL プロイメンド点滴静注用 150mg	1 B 1 V	側管	30分 フィルター使用	○								
3	生理食塩液 100mL アロキン静注 0.75mg デカドロン注射液 1.65mg/0.5mL デカドロン注射液 6.6mg/2mL	1 B 1 V 2 A 1 V	側管	30分 フィルター使用	○								
4	5%ブドウ糖液 250mL カンプト点滴静注	1 B 165 mg/m2	側管	1時間 フィルター使用	○								
5	5%ブドウ糖液 250mL レボホリナート点滴静注用「ヤクルト」 6のエルブラットと同時に開始	1 B 200 mg/m2	側管	2時間 フィルター使用	○								
6	5%ブドウ糖液 250mL エルブラット点滴静注液 5のレボホリナートと同時に開始	1 B 85 mg/m2	側管	2時間 フィルター使用	○								
7	5-FU注	3200 mg/m2	メイン	48時間 携帯型ポンプ使用	○								
8	デカドロン錠 4mg	1 錠/回	内服	1日2回朝食後		○							
9	デカドロン錠 4mg	2 錠/回	内服	1日2回朝食後			○	○					

携帯型ディスポーザブル注入ポンプ未使用時

Rp	薬剤名	量	投与方法	投与時間	投与日								
					1	2	3	4	...	14			
1	生理食塩液 250mL	1 B	メイン	キープ&フラッシュ	○								
2	生理食塩液 250mL プロイメンド点滴静注用 150mg	1 B 1 V	側管	30分 フィルター使用	○								
3	生理食塩液 100mL アロキン静注 0.75mg デカドロン注射液 1.65mg/0.5mL デカドロン注射液 6.6mg/2mL	1 B 1 V 2 A 1 V	側管	30分 フィルター使用	○								
4	5%ブドウ糖液 250mL カンプト点滴静注	1 B 165 mg/m2	側管	1時間 フィルター使用	○								
5	5%ブドウ糖液 250mL レボホリナート点滴静注用「ヤクルト」 6のエルブラットと同時に開始	1 B 200 mg/m2	側管	2時間 フィルター使用	○								
6	5%ブドウ糖液 250mL エルブラット点滴静注液 5のレボホリナートと同時に開始	1 B 85 mg/m2	側管	2時間 フィルター使用	○								
7	生理食塩液 500mL 5-FU注	1 B 3200 mg/m2	側管	48時間 フィルター使用	○								
8	デカドロン錠 4mg	1 錠/回	内服	1日2回朝食後		○							
9	デカドロン錠 4mg	2 錠/回	内服	1日2回朝食後			○	○					